

# 理研会報

発行日：平成29年12月20日

号数：No. 390

発行：印旛地区教育研究会理科研究部

H P：http://rikainba.com

メール：rikainba@yahoo.co.jp

★★

平成29年11月3日に千葉市の各会場で第67次千葉県教育研究集会が行われました。昨年までは2日間の開催でしたが、今年から1日開催になりました。また、県教研から全国教研への推薦も1名となり、サブライターがなくなりました。

印旛からは夏の印教研で、中学校1部会、小学校は5部会が推薦され、小甲先生（志津中学校）、石田先生（佐倉中学校）、塚野先生（大日小学校）、今泉先生（中央小学校）の4名が研究発表を行いました。

今回の理研会報では、県教研に参加した先生方からの感想等を掲載いたします。

## 佐倉市立志津中学校

小甲 太郎 先生

11月3日に県教研に参加させていただきました。①教材・教具を活用した効果的な指導のあり方②生徒の意欲・関心を引き出すための指導と評価のあり方③探究・思考過程を大切にし、活用する力を育む指導のあり方、以上3つを柱として合計10本の提案が行われました。どの支部も興味深い内容で、特に「防災倉庫のエンジン発電機を用いた配電モデルの実験」「磁石とクリップを用いた食物連鎖のシミュレーション実験」「電子レンジを用いて砂鉄を炭素で還元する実験」等は、すぐにでも授業で取り入れたい内容の発表でした。討議では準備の仕方や注意点、改善点について意見を交わすことができました。新たな視点を得ることができ、充実した時間となりました。

印旛支部の発表については、共同研究者から、「長いスパンの単元だと、最初は意欲的に取り組んでいた生徒も、だんだんやる気がなくなることがある。3時間を1セットとして、短くまとめて取り組むことは非常に良い」と評価していただきました。全体へは今後の研究の方向性として、「子どもにどのような力をつけさせたいか視点を明確にすること」「地域・近隣校との連携」「テーマを大きくかまえずすぎないこと」とご指導いただきました。

今回学んだことを、少しでも支部に還元できればと思います。貴重な機会を与えて下さった印旛支部の皆様には感謝申し上げます。本当に有り難うございました。

## 四街道市立大日小学校

塚野 香穂先生

11月3日に、千葉市で行われた県教研に参加させていただきました。

印旛支部は、研究主題を「問題解決の能力を育成する指導の工夫～結論を『より確かなもの』として捉え直す活動を取り入れる～」とし、第4学年「ものの温度と体積」の単元についての実践を発表しました。教科書の内容通りに学習を進めた後に、そこで導き出された結論をより確かなものとして捉え直す活動、例えば発展的な実験を取り入れたり、それまでの学習で導いてきた結論を活用して思考することのできる活動を行ったりすることで、単元を通して問題解決の能力を育むという内容です。共同研究者からは、「結論をより

確かなものとして捉え直すことはとても重要なこと。一度だけの実験で結論とするのではなく、繰り返しその知識を活用して思考することは、是非他の単元でも実践してほしい。」との評価をいただきました。一方、「今回提案した実験は、少々難しい。児童の実態に合わせたもので考えられるとよい。」というご指導もいただきました。

また、他の支部の実践を聞く中で、「実践前と実践後での単元を通じた児童のノートの変容を記録するとよい。」というご助言もありました。どの支部の提案についても討論が活発に行われ、大変勉強になるものばかりでした。

今回学んだことを日々の授業や、今後の研究等に生かして参ります。このような貴重な機会を与えてくださった印旛地区教育研究会理科研究部の皆様には、深く感謝申し上げます。